

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	12-103	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）		
Alcohol intake revisited: risks and benefits. 飲酒を再考する：飲酒の功罪		
執筆者		
Roerecke M, Rehm J.		
掲載誌		
Curr Atheroscler Rep. 2012 Dec;14(6):556-62.		
キーワード		
飲酒、死亡率、		
要 旨		
<p>目的： 飲酒と健康への影響との間の関連には長い歴史があり、多くの研究が行われてきた。癌、肝硬変、傷害や事故といった多くの疾患に飲酒の影響があるため、飲酒は概して健康にとって有害である。しかし、動脈硬化、主に虚血性心疾患や脳卒中、糖尿病においての好ましい影響にも注目される。</p> <p>方法： 過去の幅広い疫学的な文献における多数の体系的研究により、飲酒への功罪についての最新の知見を得、まとめた。</p> <p>結果：</p> <p>[飲酒と心血管疾患] 1日に平均1～2drinkの少量飲酒では虚血性心疾患において良い影響を認めたが、1回に5drink以上の大量飲酒との間には認めなかった。</p> <p>[飲酒と脳卒中] 少量飲酒と虚血性脳卒中の間には良い関連を認めたが、大量飲酒との間には認めなかった。出血性脳卒中については脳内出血、くも膜下出血のどちらにおいても、飲酒の量をと良い関連は認めなかった。</p> <p>[飲酒と糖尿病] 大規模な研究ではないものの、2型糖尿病において少量飲酒の良い関連が報告されている。機序としてインスリン感受性の増加、飲酒の抗炎症効果が考えられる。</p> <p>[飲酒と癌] 飲酒量と癌発症の危険率や死亡率との関連は概して直線的であり、1日に1drinkの飲酒であっても癌のリスクを有意に増加させる。飲酒といくつかの部位の癌との有害な関連は明らかで本質的である。</p> <p>[飲酒と感染症] アルコールの免疫系への影響のため、大量飲酒は結核の因果関係に関与するとされる。HIV/AIDS等性関連疾患については飲酒が危険な性行動を導く影響等もある。大量飲酒と感染症との関連は認められる。</p> <p>[飲酒とその他の健康への影響] アルコールと胃腸疾患との関連が強く、アルコール性胃炎、アルコール性肝疾患、アルコール起因性急性/慢性膵炎といったカテゴリーが設けられた。これらの疾患は飲酒量とリスクの増加は指数関数的であり、注目される。</p> <p>結論： 虚血性心疾患において少量飲酒の利益が報告されるものの、健康への影響における総合的な飲酒の効果は有害である。</p>		